

academic square

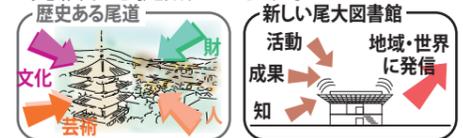
～知を凝縮し学びを発信する図書館～

求心力のある場を形成

・小さいながらも異彩を放つ本学の2学部3学科の学生がそれぞれに学問を探究すると同時に、学生たちの活発な交流を促進するための、強い求心力をもつ図書館を創ります。

尾道を基盤とする知の集積と情報発信

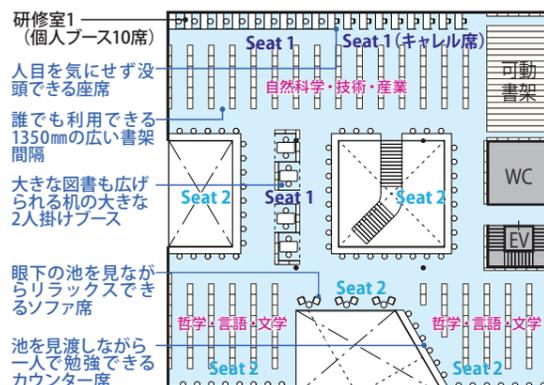
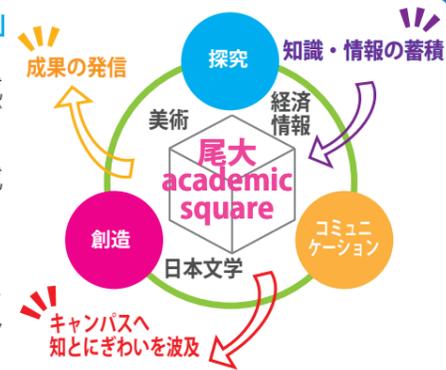
・古来より沢山の物や人が集まってきた尾道の歴史的・文化的様相を館内に反映させて、本学独自の知を集積し、創造につなげ、その成果を社会へ発信する拠点にします。



・外観はレンガ調とし、既存棟との統一感をつくります。水源池側は、レンガに合う木のルーバーを設け既存棟との調和を図ります。
・広場側には大屋根を設け、既存棟と水源池、図書館をつなぎます。大屋根の下は多目的空間として、学生たちの拠り所となるようにします。

知を凝縮する「アカデミック・スクエア」

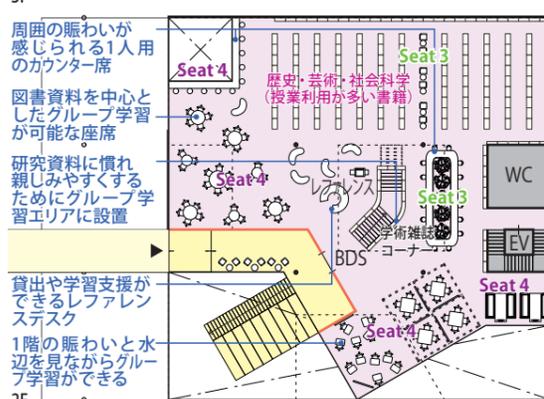
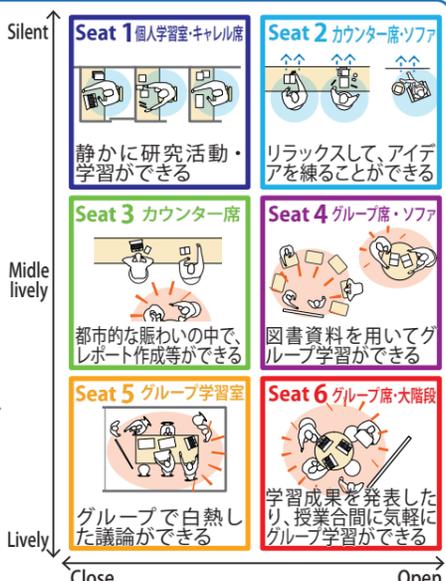
・新図書館の平面形は最も純粋な幾何学形である正方形を基本に構成し、キャンパスの新たな中心「アカデミック・スクエア」として定位させます。
・「アカデミック・スクエア」は3層で構成し、知識・情報の蓄積を活用して学習できる開架閲覧エリアと多彩な成果を生成・発信する発信エリアを融合させます。発信エリアは外まで拡張し、知の成果やにぎわいをキャンパス全体に波及させます。



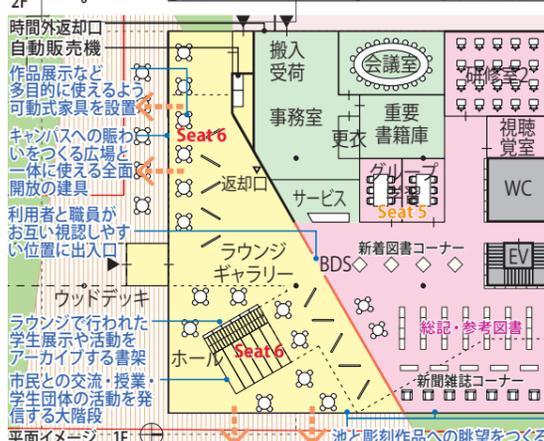
3階：Silent 個人学習中心のエリア
吹抜周囲にはガラスを設け、視覚的なつながりや池の眺望を確保しながら、下階の音を遮蔽し、個人学習に特化したフロアとします。

多彩な居場所となる「6種の座席」

・3つのフロアに、学生の多様な学習に対応する共同・共創から個人の探究・創造に至るまでの「6種の座席」を用意します。
・気分や学習の目的に応じて選択できる多彩な居場所を用意することで、学生の学習意欲を刺激し、この大学で学ぶ誇りを高めます。
・従来のような閉鎖的で静かな空間だけでなく、開放的な空間、周囲の音を感じられる空間などのバリエーションある居場所をつくります。
・1,2階は共同・共創を基本とし、グループで集中して学習できるようにします。上階に行くに従って個人学習で集中できるように秩序づけ、学生・市民共に学習に慣れ親しめる図書館をつくります。



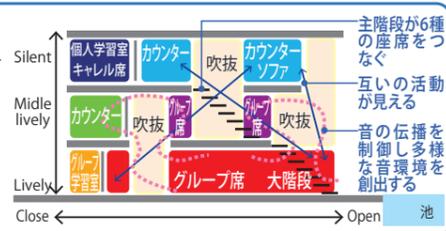
2階：Middle Lively グループ学習と個人学習が共存するエリア
活発なグループ学習ができるように、多彩なグループ席を用意します。その学習風景が公開されるようにし、学生同士が互いに刺激し合う場にします。



1階：Lively グループ学習と成果を発信するエリア
いつでも自由に利用ができ、グループ学習できるラウンジと、成果の展示や発表ができる場にします。大階段は多彩なレクチャー・講演・発表を公開で行うことができる場にします。

参道の街の情景を投影する「主階段」

・館内中央に、古寺に至る参道と符合する「迂曲した主階段」を設けて、尾道の情緒ある佇まいをつくります。
・併せて重なり合いながら見える上下階の視覚的つながりをつくり、学習意欲を互いに高め合う環境にします。



翠明館・既存施設との良好な関係付け

・新図書館の南北方向の出入口は、既存外部通路に合わせて決定します。既存棟を2階レベルでつなぐ外部通路を延長することを前提にします。

学生たちの拠り所になる「academic ポーチ」

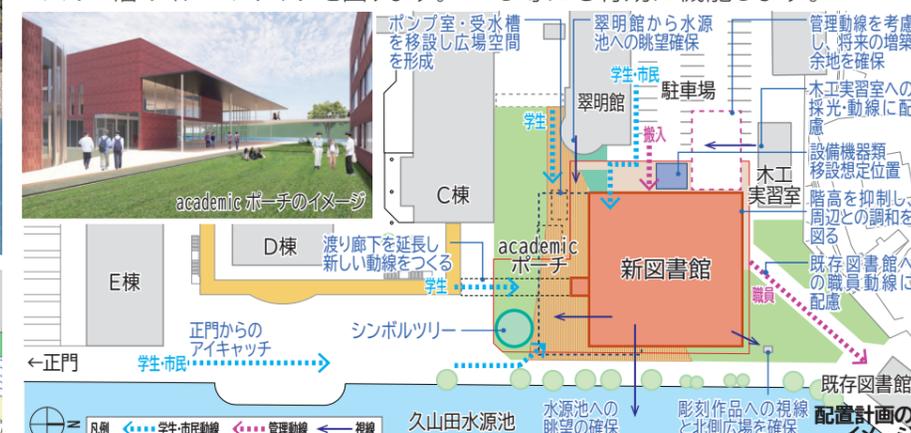
・南側に大きな庇を設け、正門からの明確なアイキャッチにします。
・翠明館、水辺をつなぐウッドデッキを設け、学生の拠り所とすると共に、キャンパスの一層のイメージアップを図ります。

建設地近傍の設備を再整理

・新図書館と既存校舎C棟や翠明館との良好な関係をつくるために、新図書館建設位置近傍にある設備の移設を検討します。

バリアフリーと災害時の対応の両立

・外部からの動線も含めた段差解消、誰でも見やすいサイン計画を行います。
・academic ポーチは災害時の一時避難場所となり、災害物資受入れ・炊出し等にも有効に機能します。



管理運営しやすい施設

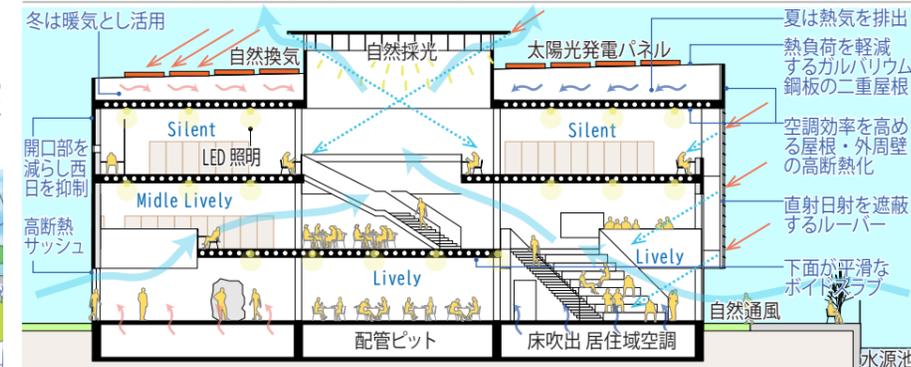
・資料の貸出・返却はセルフサービスを前提とします。蔵書検索は学生各自のスマートフォン・パソコンの活用を推進します。
・1,2階にBDSを設け、セキュリティ区画を明確にします。BDSの近傍にはサーバースタック、レファレンスデスクを配置します。

快適な学習環境の形成

・蔵書検索や電子データ利用に対応したWi-Fi環境を整備すると同時に、座席や各所にコンセントを用意します。
・それぞれの座席の性質に合わせた、光環境、音環境を計画します。
・出入口扉などは非接触を基本とし、感染症対策を行います。



テーマ4 ZEB実現へ向けての考え方と、建設コスト削減の考え方



パッシブを基本としたZEBへの取組

・設計チームにZEB認証取得実績のあるZEBプランナーを配置します。
・温暖で日照時間の長い尾道の気候を活かしたパッシブ手法を基本とし、設備の省エネ手法を組み合わせ、ZEB実現を目指します。

建設コスト削減

・シンプルかつ外壁面積を小さくして、全体コストの削減を図ります。
・寸法をモジュール化し、汎用性のある材料で建物を構成します。
・コスト管理部門において市場状況を監視し、コストをコントロールします。